



参加者皆さんの輪をつくることを心がけています。

— 松本ヒサさん —

子育てサロンは「子育て中の方や妊娠中の方がほっとしリフレッシュできる場」。今回は「ほっとひろば加美平」の松本ヒサさんからお話を伺いました。



平成15年、子育てサロン「ほっとひろば加美平」を立ち上げた松本ヒサさん。インタビュー中、涙ぐみながらも「皆さんの力でここまでできた」と笑顔もみせられていました。加美平在住

立ち上げられた理由

きっかけは、社会福祉協議会が始めた福祉センター内の「ほっとひろば」の立ち上げに関わったことからです。それまでは、「ほっとサービス」に携わっていました。平成14年に福祉センターで「ほっとひろば」が始まると、疑問がわいてきました。福祉センターから遠い地域の方が利用しに来ることは無理ではないかと思っただけです。それで、自分の住んでいる加美平地区に子育てサロンを立ち上げようと思いました。それから社会福祉協議会の方たちにお手伝いや助まをいただき、1年かけて近くの公園などを回り、お母さんなどに「こうしたことをやってみただけでも、どうかな」と声をかけ、反応をみて、平成15年に始めました。やはり、社会福祉協議会の方々などの後押しもあったことが心強く大きかったです。最初は何名かで始めようと思いましたがとらずに1人で始めることになりました。

現在の状況

最初6組でスタートした「ほっとひろば加美平」も現在は平均で15組の方々に利用していただいています。スタッフ6名のうち、赤ちゃんを連れてきて、そのままボランティアとして残ってくださる方も数名います。今あるのもスタッフの方たちのおかげだと思います。

お母さんたちの様子や反応は？ 現場で嬉しかったことよかったことは？

最初は、少し子育てに疲れたような表情のお母さんも1年経つと他の人たちとにこやかに話し、明るくなってきます。お母さんが変わると子どもも変わります。良い方へ変わって行く姿を見るのは、嬉しいです。疲れたからひろばに来て、お子さんと遊びたいよといったことで良いので、気軽に来ていただきたいですね。

エピソード

たとえば乳児を連れて参加した方で、お布団で寝かしている間、そばで音がするたびに、その子のところへ駆けつける方がいました。家でも、物音がするたびにそうしているそうです。それではお母さんの感情が伝わって、子どもがとても神経質になってしまいます。「目があいても、そのままにしておいたら。」と話しました。そうすると、1年経っていくうちに、その子も近くで物音がしても大丈夫になりました。何よりもお母さんが変わったんです。お母さんが変わらないと子どもは絶対変わらないですね。もちろん、私たちは相談を受ければ答えますが、集まった方たちの輪ができることを見守るのがほとんどです。お母さんたちの輪の中でそのお母さんがとても変わりましたし、そして、子どもも変わりました。それは、このひろばに携わっていることの喜びですね。

松本さんから見て今のお母さんは？

最近のお母さんを拝見して感じることは、例えば歩きの遅い子ども、よその子と比べて「うちの子はおかしい」と思い込んでいる「離乳食をこの時期になると食べられると、この育児書には載っているのにうちの子は食べない、どうしたらよいか」と悩んだりしています。近くにおじいちゃんやおばあちゃんがいらっしゃるれば、個人差が当然ありますよとアドバイスを頂いたりも



取組を助けられる松本ヒサさん



ほっとひろば加美平

できるのでしょうが、そうしたことがなくて一人で悩んでいるお母さんたちが多くいます。ほっとひろばでいろいろなお母さんたちと出会って、楽になっていただければと思います。

お母さんたちは、常に頑張らなくてはどういう意識を持ちすぎているような気がします。もっと気楽に子どもと一緒に育っているんだといった気持ちを持ったほうがよいのではないのでしょうか。何でそんなに子どもだけに目を向けてしまうのだろう、なんでそんなに神経質になってしまうのだろうと思います。子どもに期待しすぎてしまうのかな。でも、私もそうでした。

ふだん心がけていること、 心がけたいと思っていること

聞き役に徹して、お母さんの輪をつくることを心がけていますが、神経は使いますね。でも、ありがたいことに2番目の子をもったお母さんが2人もボランティアに参加してくれています。そうしたボランティアの輪が広がるのがとても良いと思います。年代の近い人たちのほうが、お母さんたちのつながりを作っていると思います。そして、このような動きから、地域が子育てを手伝いあえる社会になっていくことが、この取り組みの本来の目的です。

子育て環境に関して感じていること

私が育ったころは、隣近所が仲良く、自分の子も他人の子も区別なく関わりあった時代でした。現代は、子育て環境も複雑で難しく、声をかけるのもためらうことがありますし、立ち入られることをいやがるお母さんもいらっしゃいます。このような環境が現状です。他人からお手伝いしづらい社会が現在の子育て環境かもしれませんね。このひろばに来て知り合ったお母さんが、じつは同じ団地の隣の部屋同士だったということもありました。いかに近所のお付き合いが少なくなったかという実例かなと思います。

活動の今後、これからの希望

当初、ひとりで悩んでいて相談できないお母さんたちの手助けをしたいと思って始めました。児童虐待といった事態にならないように、子育てに悩んでいそうな方に、もっと声をかけて、ここに連れてきて欲しいと参加者に話しています。

でも本当にこの場を必要としている方が来てもらうためにどうしたらよいかと思う反面、一方でそこまで私たちが入り込むこともできないのかなという思いもあり葛藤しています。3年目ということで、活動も落ち着いてきたので様々な考えが浮かぶのかもしれない。

取材を終えて

○子どもたちの成長を見ながら私自身も多くのことを学んでいます。と、ほほえむ松本さん。奥ゆかしいお人柄のなかに凛とした姿勢が大変印象的でした。また、ひろばでの活動を写真に撮影して、お父さんたちに子どもたちの様子を見てもらったりしているそうです。子育てを男性も女性も前向きに向き合いながら取り組むことは大変重要だと思いました。

○自ら1人で公園に行き、砂場でお母さんたちに現状を聞き実地調査を行う実行力は並大抵ではありません。本当に必要だと思わなければ動けないでしょう。3年目に入り若いお母さんもスタッフに加わり安定し継続できるのも、常に現状を見て問題意識を持ち、どうしたらいいのか、謙虚に考え続けている松本さんご自身の人柄のおかげだと思いました。

子育てサロン

- 【内容】
- ボランティアさんが子どもの遊んでいる様子をお母さんと一緒に見てくれたり、子育ての悩みを聞いてくれたりします。
- 友だちを作って、悩みを相談し合ったり有意義な時間を過ごせます。
- 【対象】
- 市内在住の妊娠中の方、未就学児とその保護者が利用できます。
- 【利用方法】
- 前泊内であれば、いつ来ても、いつ帰ってもOKです。

※お申込と連絡先として、1家あたり100円の手数料がかかります。詳しくは各ひろばをご覧ください。

ほっとひろば



【場 所】 福祉センター1階保育室
(※靴入れ用ビニール袋をお持ちください)
【日 時】 第1-3月曜日(月2回) 10:30-14:00
【部 屋】 フローリング、ベビーベッド有り
【問合せ】 福生市社会福祉協議会(TEL 552-2121)へ

ほっとひろば白梅



【場 所】 白梅会館
【日 時】 第4水曜日(月1回) 10:00-13:00
【部 屋】 和室
【問合せ】 福生市社会福祉協議会(TEL 552-2121)へ

ほっとひろば加美平



【場 所】 かえで会館
【日 時】 第1-3木曜日(月2回) 10:00-13:00
【部 屋】 和室
【問合せ】 福生市社会福祉協議会(TEL 552-2121)へ

はとぼっぼ



【場 所】 扶養会館
【日 時】 第2金曜日(月1回) 10:00-12:00
【部 屋】 和室
【問合せ】 福生市役所福祉部社会福祉課(TEL 551-1511(内線353))

ぴよぴよらんど



【場 所】 福東会館
【日 時】 第2火曜日(月1回) 10:00-12:00
【部 屋】 和室 ほか
【問合せ】 福生市社会福祉協議会(TEL 552-2121)へ